平成18年度中間評価結果（平成19年3月）

［研究開発課題名］ **シームレスな位置情報検出を実現する高精度角速度センサチップの研究開発**
［委 託 機 関 名］ **株式会社国際電気通信基礎技術研究所**

項　目	評　価 ランク	所　　見	再評価 ランク	再　所　見
総合所見	A	（技術：研究を成功させるためのポイント、その他特記事項等についての総合的な所見） 本研究開発対象である半導体角速度センサチップの技術自体が独自のものでありかつ他の追随を許さないものであるため、成功の可能性は非常に高いと思われる。中間報告段階において、半導体角速度センサチップの開発に向けて順調に成果があがっている。特に、理論的な解析により、それまで知られていなかったロックイン領域の存在を導出し、その問題をキャビティ形状により解決できる点を発見するなど、今後の作製水準の飛躍的な向上につながる発見に加えて、学術的にもすばらしい成果であると考える。この成果を、半導体チップによる超小型ジャイロセンサ開発に結び付け、この方式の世界的なパイオニアとして研究を推進されることを期待する。方式として本質的に動作可能であることを、試作チップにて早期に実証することが重要と考える。また、完全な固体リングではないが、半導体を活性媒質として用い、受動導波路でリングを形成するS-FOGも、従来のファイバ型リング共振器に比べれば格段に小型なジャイロセンサである。これを発展させて、導波路型チップで小型ジャイロセンサとして開発することも、全半導体型チップセンサの代替方式として意義があると考える。	－	（技術）
		（事業化：事業化のシナリオ、波及効果の見込、収益の可能性等に関する総合的所見） ●●●